

洞爺湖有珠山ジオパーク 再認定現地審査報告書（公開版）

審査員：尾池和夫（日本ジオパーク委員長）・野辺一寛（隠岐ユネスコ世界）・鶴飼宏明（天草）

期間：平成 28 年 10 月 20～21 日

主な参加者（所属）

真屋敏春（洞爺湖町長）、村井洋一（豊浦町長）、菊谷秀吉（伊達市長）、佐藤秀敏（壮瞥町長）、三松三朗（推進協議会学識顧問、三松正夫記念館館長、NPO 法人ジオパーク友の会代表）、阿部秀彦（火山マイスターネットワーク代表）、井畑直樹・飯田理（ワカサリゾート株式会社）、川南恵美子・菅野三知博・池田武史・石畑隆史・荒町美紀・安藤 忍・江川理恵・市毛玲子・後藤信二・木原敏明（ジオパーク友の会、火山マイスター）、小倉定一・前田武志・永谷幸人（オコンシベの会）、乳井亜矢子（NPO 法人自然体験学校理事）、高橋淳一・川瀬康平・佐々木伸（洞爺湖ビジターセンター）、猪師未智（虻田高校 3 年生）、福島豪（とうや Binocolo、火山マイスター）、小川遥奈（北翔大学 4 年生）、高橋祐子（環境省アクティブレングジャー、火山マイスター）、横山 光（推進協議会教育普及委員長、北翔大学教育文化学部、火山マイスター）、小川裕司（推進協議会ガイド委員長、株式会社洞爺ガイドセンター代表取締役、火山マイスター）、佐々木清志（行政委員会委員長、洞爺湖町観光振興課課長）、山本 茂（NPO 法人だて観光協会事務局長）、伊藤つぐみ（NPO 法人豊浦観光ネットワーク 事務局次長）、毛利貞秀（NPO 法人そうべつ観光協会事務局長、火山マイスター）、高橋秀明（社団法人洞爺湖温泉観光協会事務局長）、吉川康隆（洞爺まちづくり観光協会事務局長）、三島邦代（洞爺湖芸術館友の会会長（館長））岡田弘（推進協議会学識顧問、北海道大学名誉教授）、広瀬 亘（推進協議会学識顧問、北海道総合研究機構地質研究所）、青野友哉（推進協議会学識顧問、伊達市噴火湾文化研究所学芸員）、高田真次（伊達市企画財政部企画課課長）、作田宏明（壮瞥町総務課課長）、三松靖志（壮瞥町商工観光課課長補佐兼ジオツーリズム推進係長、火山マイスター）、笹森穰（北海道胆振総合振興局地域創生部地域政策課課長）、小川明子（北海道胆振総合振興局地域創生部地域政策課主査）、中山裕貴（環境省洞爺自然保護官事務所自然保護官）、武川正人（推進協議会事務局長）、田仁孝志・加賀谷にれ・中谷麻美・畑吉晃（推進協議会事務局長）

見学地点

洞爺湖幼稚園・旧国道 230 号線サイト、とうや水の駅、カムイタブコプ下遺跡、史跡北黄金貝塚公園、道の駅そうべつ情報館 i、有珠山ロープウェイ・昭和神山三松正夫記念館、洞爺湖ビジターセンター・火山科学館、洞爺湖観光情報センター

現地再審査のまとめ

1) ジオサイトと保全

災害遺構の保護は、現状のまま手を加えず自然に任せるサイトと、人為的に保全を図るものを協議会で判断して管理されており、前回の再審査より改善されている。旧とうやこ幼稚園のサイトの一部に植生の回復を観察する保護地区を明確に設け、その他の場所は草刈りなどして大地の変動を伝えるための活用が行われている。西山山麓散策路は、自然公園法で保護された場所であるが、2013 年の GGN 再審査においても旧国道 230 号線の一般利用について指摘されたことから、活用に向けて関係省庁との調整が行われており、2017 年の UGG 再審査までに、一部の一般開放を実現させるなど、早急な進展が望まれる。2000 年以降、ジオサイトでは植生が回復してきており、解説板にしめす写真と現状とにギャップがあり、利用者に分かりやすく説明する工夫が必要となってきた。また、「旧とうやこ幼稚園」については、重要な見どころであるが、施設内に入らずに素通りされている現状が見受けられた。南口駐車場側、及び北口側から園庭に誘導する標識が必要である。ジオサイトの解説板の内容については火山マイスターを中心に、より良いものをつくる活動が行われるなど、新たなジオパーク活動が行われている。ジオサイトの維持については、火山マイスターネットワーク、ジオパーク友の会など、多くの有志により活動が行われている。北黄金貝塚公園など歴史・文化に係るサイトでもジオパークへの協力体制およびジオと結びついた解説が充実してきており、改善が認められる。洞爺湖の基幹産業である温泉産業に関するジオストーリーや歴史の解説が温泉街に見られないため、来客者に周知する工夫が必要。ジオパーク内の植生や自然に関する解説板は散策コースや保護地

に見られるが、協議会が監修したものでは無いことが多いため、盤面の張り替えなどが予定される場合は、連携してより良いものにしてほしい。

2) 教育・研究活動

学校教育については、全国のジオパークに先駆けて児童用と指導者用に分かれた野外学習テキストを発行するなど、ジオパーク教育が充実している。これを活かしてジオパーク地域内のジオパーク教育の普及を拡大してほしい。学術的には学術顧問を中心に手厚い協力体制が整っている。今後もこの協力関係を継続してもらいたい。火山マイスターネットワークの存在が大きく、ガイド活動・防災教育・自然学習など多岐にわたる需要がある。この団体の活動が今後も期待される。この団体の継続的な活動を維持するサポートを、今後も行ってもらいたい。学識顧問と教育普及委員の兼任など特定の人への依存度の高さが目立つので検討が必要。教育普及等には、現職の学芸員や教員などの更なる参画が望まれる。地域内の歴史・文化に係る専門家との連携がより強化されている。アイヌ文化との関わりについても情報を更に集めストーリーに活かしてほしい。この地域では有史の火山活動と変動する大地がメインとなっており、そのことは十分活用されている。UGGとして、更に、最近の火山活動が地球と北海道地域の成り立ちに関わっているという、ダイナミックな視点での解説が求められる。学校教育では教員対象にジオパーク研修が行われていることなど、今後の広がり期待できる。

3) 管理組織・運営体制

前回の指摘事項であった事務局長の短期異動が抑えられおり、改善している。自治体間の連携については協議会幹事をそれぞれの自治体が受け持ち、連絡体制が確立し、交流も行われている。推進協議会には専門職員がいないが、加賀谷事務局員が学術的知識を備え、学術顧問と事務職員とのコーディネートを行うことにより学術面の質が保たれている。事務局に学術的専門職員を来年春からの採用に向けて取り組みが進められているため、更に確実でスピード感のある成果物ができることに加え、地域住民への情報提供や普及も加速すると思われる。事務局の体制強化の早期実現を期待したい。2012年に協議会で作成されたマスタープランは今後作り直す計画があり、ユネスコ世界ジオパークとなったことを踏まえ、改善する姿勢を評価できる。

4) 地域の持続可能な発展とジオツーリズム

火山マイスターネットワークだけでなく、ジオパーク友の会というサポート団体が機能し始めており、ジオツーリズムの広がりが見える。女性のガイドも多く、臨機応変な対応ができています。審査ではジオに係ることを中心に解説があったが、植物に関する知識はジオを上回る（豊富な）方が多いという。駅や道の駅、主要ホテル、インフォメーション施設など来客の多い場所にジオパークのパンフレットや全域のジオサイトを紹介する展示棚が整備され、積極的なジオパーク普及活動が伺える。また、「11万年のうへの1日」というストーリーブックでのジオストーリーの普及や、その内容に沿った「大地と食のものがたり」のカードを作成し、ジオと食とのつながりをPRしている。有珠山ロープウェイの協力も大きく、乗り場でのジオパークの普及展示が拡充しており、ガイド利用は増加している。

地域の持続可能な発展のために温泉の使い方のポリシーや活用方法の周知、それに関わる文化・生活などの解説が望まれる。洞爺湖ビジターセンター／火山科学館は、多くの来訪者が立ち寄り、洞爺湖有珠山ジオパークの重要な拠点施設である。ジオパークの展示物が増え、視認性の向上についての取り組みが進められてきているが、さらなる視認性の充実を進めて頂きたい。特に、火山科学館の展示や映像について、ジオパーク認定地域としての情報追加および周知展示の充実が望まれる。

5) 日本ジオパークネットワークおよびユネスコ世界ジオパークネットワークへの貢献

洞爺湖観光情報センターを始めとする多くの拠点施設において、洞爺湖有珠山ジオパークの見どころが分かりやすく紹介されているが、日本およびユネスコ世界ジオパークネットワークへの貢献として、北海道のジオパークを含む日本および世界各地のジオパークを紹介し、当該地域を訪れる観光客への普及を行ってほしい。JICA研修や海外のジオパークを目指す地域

からの視察を受け入れており、ジオパークの取り組みを紹介する「ジオパークの種まき」活動が実施されている。また JGN の ODA 事業「アジア太平洋地域におけるジオパークネットワーク活性化に向けたキャパシティ・ディベロプメント支援」プロジェクトにも事務局員が積極的に参加していることから、UGG として今後、海外の UGG 地域と姉妹提携などを行い、UGG の一員として海外とのネットワーク活動が行われることに期待したい。

6) 防災活動

火山マイスターおよび学術顧問による自然災害への防災教育が盛んに行われている地域であり、全国のジオパーク地域が見習うべき活動が行われている。次の噴火に向けた防災についても自治体および住民の意識は高く、自然災害に強い地域づくりが行われている。

以上。